

孔子と『論語』(第 10 回)

「山川は永くして万世也、人は短くして百年也」(空海)。
猛暑からあつという間の秋となり月日の移ろいの速さからそんな言葉が気になりました。

純粋な古典『論語』講話、第 10 回目は「人と我」、「巧言令色少なし仁、和して同せず」が印象的であります。

資料に基づいて、安岡先生のわかり易い「論語講話」は親しみやすいです。
加えて、鈴木岳靖先生から『漢詩』の吟詠に拍車がかかります。

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。
皆様のお越しをお待ちしています。

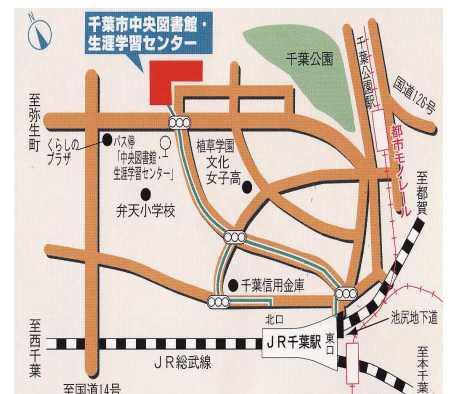
日時に注意して
下さいませ。
す。

記

1. 日 時 : 平成 27 年 9 月 27 日 (日)
PM 16 時 00 分 ~ 18 時 00 分
2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811
<交通案内> JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り
3. 会 費 : 1000 円
4. 演 題
第一部 『論語』から「人」と「和」について
(1) 君子は人の美をなす 『論語』 顔淵第十二
(2) 道聴途説(どうちょうとせつ) 『論語』 陽貨第十七
(3) 君子も悪(にく)むことあり 『論語』 陽貨第十七
(4) 八方美人 『論語』 子路第十三
(5) 和と同 『論語』 子路第十三

第二部 『東洋学と詩吟』

指導 鈴木 岳靖 先生 (日本詩吟学院)



以上

千葉木鶏クラブ 代表兼事務局 丸島 忠夫

Email: marushima_t@snow.plala.or.jp Tel: 0475-25-1211 Fax: 0475-38-5153

孔子と論語 (安岡正篤講和選集)

第 10 回 「人」と「我」

(1) 君子は人の美をなす

「子曰（のたま）わく、君子は人の美を成し、人の悪を成さず。小人は是（これ）に反す。
『論語』 顔淵第十二

< 要 約 >

「君子は、人の美点を伸ばし、人の悪い所は抑えようとするが、小人はその反対である。」

(2) 道聴途説 (どうちょうとせつ)

「子曰（のたま）わく、道に聴きて途（みち）に説（と）くは徳を之れ棄（す）つるなり
『論語』 陽貨第十七

< 要 約 >

「道端でよいことを聴いて、さっそくその聞きかじりを途中で話すのは、徳を棄てるようなものだ」

(3) 君子も悪（にく）むことあり

「子貢問うて曰（い）わく、君子も亦悪（にく）むこと有りや。
子曰（のたま）わく、悪（にく）むこと有り。人の悪（あく）を称（しょう）する者（もの）を悪（にく）む。
下（しも）に居て上（かみ）を訕（そし）者（もの）悪（にく）む。勇（ゆう）にして禮（れい）無き者を悪（にく）む。
果敢（かかん）にして塞（ふさ）がる者を悪（にく）む。
曰（のたま）わく、賜（し）や亦悪（にく）むこと有りや。微（かす）めて以（もつ）て知（ち）爲（な）すものを悪（にく）む。
不遜（ふそん）にして以（もつ）て勇（ゆう）と爲（な）す者を悪（にく）む。
訶（あば）きて以（もつ）て直（ちよく）と爲（な）す者（もの）を悪（にく）む。
子曰（のたま）わく、唯（ただ）女子（じよし）と小人（しょうじん）とは養（やしな）い難（かた）しと為す。之（これ）を近づくれば則（すなわ）ち不遜なり。
之を遠（とお）ざくれば則ち怨（うら）む。
子曰（のたま）わく、年（とし）四十（しじゅう）にして悪（にく）まるるは其（それ）終（おわ）らんのみ。
『論語』 陽貨第十七

< 要 約 >

子貢が尋ねた、「君子でもにくむことがありますか」先師が答えられた。
「にくむことはあるよ。人の悪を人に吹聴するものをにくむ」。勇気があって無作法な人をにくむ。そして思い切りがよくて道理（わけ）のわからない者をにくむよ。
さて、賜（し）もまたにくむことがあるかね。

これに対して子貢は「私は、「さきまわりして物事をさぐっておいて、知ったかぶりする者をにくみます。傲慢でいてそれを勇氣だと思っている者をにくみます。

人の秘密をあばいていて正直ぶる人をにくみます。」と答えた。

先師が言われた。

「唯教養のない女と男とは、扱いが難しい。近づけるとなれて無遠慮になり、遠ざけると恨むようになる。

先師は「年が四十にもなって毛嫌いされたり、にくまれたりする者は、先の見込みはないだらうね。

(4) 八方美人

子貢問うて曰 (い) わく、郷人 (きょうじん) 皆 (みな) 之 (これ) を好 (よみ) せば如何。

子曰 (のたま) わく、未だ可ならざるなり。

郷人 (きょうじん) 皆 (みな) 之 (これ) を悪 (にく) まば如何。子曰 (のたま) わく、未だ可ならざるなり。郷人 (きょうじん) の善 (よ) き者は之を好 (よみ) し、其の善 (よ) からざる者は之を悪 (にく) むに如かざるなり。 『論語』 子路第十三

< 要約 >

子貢が「村の人の誰からも好かれるような人は、立派な人でしょうか」と尋ねた。先師が答えられた。「未だ充分ではないねえ」それでは村の人の皆から憎まれるような人は悪人でしょうか」と尋ねた。先師は答えられた。「まだそうとは言えないね。村人の善い人から好かれ、善くない人から憎まれる人には及ばないよ」

(5) 「和」と「同」

子曰く、君子は和して同せず。小人は同して和せず。

『論語』 子路第十三

< 要約 >

先師が言われた。「君子は、誰とも仲良くするが、強いて調子を合わせたりしない。小人は誰でも調子を合わせるが、心から仲良くしない」

(6) 目先の小利を追うな

子夏管父 (きよほ) の宰 (さい) となりて政 (まつりごと) を問う。子曰 (のたま) わく、速 (すみや) かならんと欲すること母 (な) かれ。小利を見ること母 (な) なかれ。速 (すみや) かならんと欲すれば則ち達せず。小利を見れば則ち大事成らず。

『論語』 子路第十三

< 要約 >

子夏が、管父 (魯の町) の代官になって、政治の要道を尋ねた。先師は答えられた。

「速やかに成果を挙げようと思うな。目先の利にとらわれないようにしなさい。無理に速くしようと思えば目標に到達できない。目先の利にとらわれると大きなことは完成しないよ」

以上